

# 感染症発生動向調査委員会報告 6月

## 今月のトピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、過去6年間で最も高い水準で、注意が必要  
 麻疹報告数は5月に引き続き減少傾向  
 緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中  
 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症が増加傾向  
 百日咳が全国的に増加していますので、注意が必要

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年5月19日から平成20年6月22日まで(平成20年第21週から第25週まで。ただし、性感染症については平成20年5月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成20年 週 - 月日対照表

第21週	5月19～25日
第22週	5月26～6月1日
第23週	6月2～8日
第24週	6月9～15日
第25週	6月16～22日

## 全数把握の対象

### < コレラ >

今年1例目の報告がありました。経口感染が疑われ、推定感染地域はフィリピンでした。

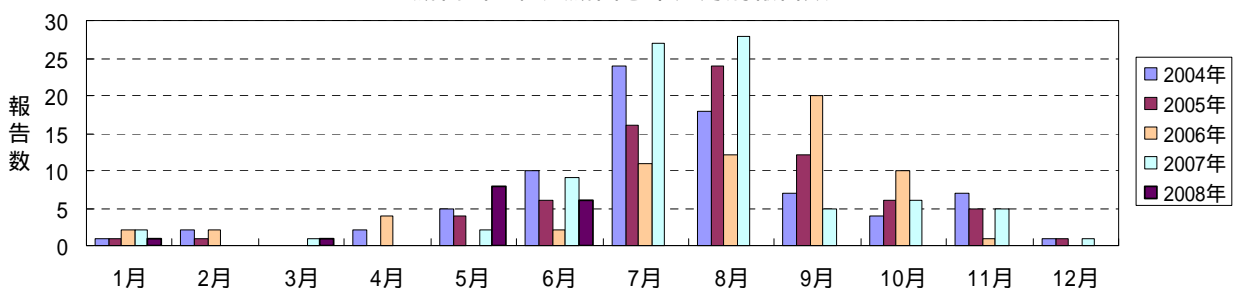
### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

6月の報告数は、26日現在で6例です。修学旅行生の集団感染と見られる事例がありました。年齢の内訳は、10歳未満が1例、10代が2例、40代が1例、50代が1例、60代以上が1例でした。毎年、夏に報告が多くなりますので、今後に注意が必要です。例年、生肉(生レバー等)や生焼けの肉の喫食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> もあわせてご覧ください。

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



### < 麻しん >

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第25週(6/15～22)までの報告数は1387例で、全国の報告数9666の14.3%を占めています。年齢別では過半数が10代です。また、約半数が予防接種未接種でした。

6月1日～22日までの報告数は、43例と、5月に引き続き減少していますが、2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

(日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底。

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施。

## 定点把握の対象

### < 咽頭結膜熱 >

夏季に流行する疾患で、例年6月頃から増加が見られます。横浜市では、第25週は定点あたり0.78と、増加傾向が見られます。行政区別では、港北区(3.14)、磯子区(2.25)、港南区(1.67)が高くなっています。川崎市は1.36と、横浜市より高い値です。全国では、0.85でした。今後の動向には注意が必要です。

啓発用チラシ「咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう!」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/intouketumaku2008.pdf> も合わせてご覧ください。

平成20年 週 - 月日対照表

第21週	5月19～25日
第22週	5月26～6月1日
第23週	6月2～8日
第24週	6月9～15日
第25週	6月16～22日

### < A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >

第2週以降増加傾向が続き、第23週は定点あたり3.67と、過去6年間で最も高い値となりました。第25週も3.28と高い値が続いています。行政区別では、港北区(13.43)、瀬谷区(8.50)、緑区(8.00)に多く見られました。川崎市は3.88と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は3.11でした。全国は2.62でした。今後も注意が必要です。

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0626.pdf> も合わせてご覧ください。

### < 手足口病 >

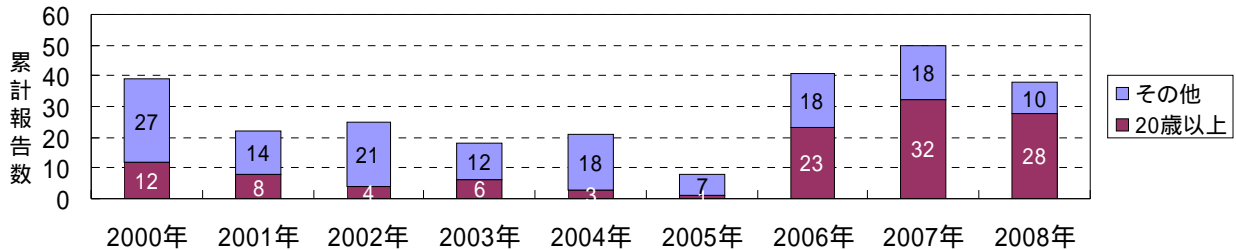
第25週は定点あたり0.66と、やや増加の兆しが見られます。例年夏にかけて増加してくることから、今後の動向に注意が必要です。川崎市は1.21、全国は1.67と、横浜市より高い値です。

### < 百日咳 >

第21～25週の報告は21人で、そのうち15人が20歳以上でした。全国的には例年より高い水準が続いており、成人の報告例が多くなっています。成人の診断は困難な場合があります。注意が必要です。

百日咳の診断等については「国立感染症研究所感染症情報センターIDWR感染症の話 百日咳」  
[http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03\\_36.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_36.html) もご参考にしてください。

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第25週)



### < ヘルパンギーナ >

第25週は定点あたり1.30と、増加の兆しが見られます。川崎市は2.06、全国は1.57と、横浜市より高い値でした。例年、6月末～7月にピークを迎えるため、これからの季節は注意が必要です。

### < 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

5月は、4月に比べて、横ばい傾向です。15～19歳の若年層については、男性は性器ヘルペスウイルス感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、尖圭コンジローマで1例見られました。

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点：8か所、インフルエンザ(内科)定点：5か所、眼科定点：1か所、基幹(病院)定点：3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

##### < ウイルス検査 >

2008年6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点は35件(鼻咽頭ぬぐい液34件、直腸ぬぐい液1件)、眼科定点は1件(眼脂)、基幹定点は11件(鼻咽頭ぬぐい液8件、髄液9件、便2件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎24人、口内炎5人、胃腸炎3人、結膜熱2人、突発性発疹1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は脳症疑い3人、意識障害3人、可逆性脳梁膨大部病変1人、手足口病1人、歩行障害1人、麻しん脳炎1人、インフルエンザ1人(バンコク渡航者)でした。

7月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス2型が、1人からアデノウイルス3型が、1人から単純ヘルペスウイルス1型が分離されています。また、基幹定点のインフルエンザ患者からはAH3型インフルエンザウイルスが分離されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者1人からコクサッキーAウイルス6型が、1人からコクサッキーAウイルス5型が、口内炎患者1人からコクサッキーAウイルス6型が、1人からコクサッキーAウイルス2型が、突発性発疹患者からヘルペスウイルス6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

##### < 細菌検査 >

6月の感染性胃腸炎関係の受付は4菌株で起因菌は検出されませんでした。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は5件でA群溶血性レンサ球菌が4件から検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課(細菌担当・ウイルス担当) 】